

令和4年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査 調査結果に関する

教育長コメント（12月23日）

- 令和4年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果から、本道の児童生徒の体力合計点は、小・中学校の男女いずれも全国平均に届いていない状況ですが、全国平均との差は、小学校の男女では差が縮まっており、改善の兆しが見られます。一方で、中学校の男女では全国平均との差が広がるなど、依然として課題も見られます。
- 各市町村教育委員会及び学校では、新型コロナウイルス感染症の収束の見通しが立たない中、子どもたちの体力・運動能力の向上のため、感染症対策と教育活動の両立に向けて最大限にご尽力され、家庭、地域と連携を図りながら、校長のリーダーシップによる主体的・対話的で深い学びの実現に向けた組織的な授業改善、望ましい生活習慣の確立などに向けて取組を進めていただいております。引き続き、こうした取組の充実を図ることが必要と考えております。
- 今後、本調査結果を詳細に分析するとともに、その結果を踏まえ、これまでの取組の更なる改善・充実を図り、本道の子どもたちが、運動やスポーツを通じて体力・運動能力を高め、生涯にわたって幸福で豊かな生活を実現するための基礎を培うことができるよう、学校、家庭、地域、行政が一体となった効果的な取組の充実を推進してまいります。

教育関係者や保護者の方々はもとより、広く道民の皆様のご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。